

都会で

——或は千九百十六年の東京——

芥川龍之介

青空文庫

一

風に靡なびいたマツチの炎ほのほほど無ぶ気味きみにも美しい青いろはない。

二

如何いかに都会を愛するか？——過去の多い女を愛するやうに。

三

雪の降つた公園の枯^{かれ}芝^{しば}は何よりも砂糖漬にそつくりである。

四

僕に中世紀を思ひ出させるのは嚴^いめしい赤煉瓦^{あかれんぐわ}の監獄である。
 若し看^{かん}守^{しゆ}さへるなければ、馬に乗つたジアン・ダアクの飛び出
 すのに遇^あつても驚かないかも知れない。

五

或女給の言葉。——いやだわ。今夜はナイホクなんですもの。

註。ナイホクはナイフだのフオオクだのを洗ふ番に当ることである。

六

並み木に多いのは篠懸すずかけである。橡とちも三角楓たうかへでも極めて少ない。しかし勿論派出所の巡査はこの木の古典的趣味を知らずにゐる。

七

令嬢に近い芸者が一人ひとり、僕の五六歩前に立ち止まると、いきな

り挙手の礼をした。僕はちよつと狼狽らうばいした。が、後ろうしを振り返つたら、同じ年頃の芸者が一人、やはりちやんと挙手の礼をしてゐた。

八

最も僕を憂鬱にするもの。——カアキイ色に塗つた煙突えんとつ。電車の通らない線路の錆さび。屋上をくじやう庭園に飼かはれてゐる猿。……

九

僕は午前一時頃或町裏を通りかかった。すると泥だらけの土工どこうが二人、瓦斯ふたりか何かの工事をしてゐた。狭い路は泥の山だつた。のみならずその又泥の山の上にはカンテラの火が一つ靡なびいてゐた。僕はこのカンテラの為にそこを通ることも困難だつた。すると若い土工が一人、穴の中から半身を露あらしたまま、カンテラを側わきへに向けてくれた。僕は小声に「ありがたう」と言つた。が、何か僕自身を憐あはれれみたい気もちもない訣わけではなかつた。

十

夜半やはんの隅田川すみだがはは何度見ても、詩人S・Mの言葉を越えること

は出来ない。——「羊羹やうかんのやうに流れてゐる。」

十一

「××さん、遊びませう」と云う子供の声、——あれは音おんの高低を示せば、×× San Asobi-ma show である。あの音おんはいつまで残つてゐるかしら。

十二

火事はどこか祭礼に似てゐる。

十三

東京の冬は何よりも漬^つけ菜^なの茎の色に現^{あらは}れてゐる。殊^ばに場末^{すゑ}の町々では。

十四

何かものを考へるのに善^よいのはカツフエの一番隅の卓^テ子^エ、それから孤独を感じるのに善^よいのは人通りの多い往^わ来^うのまん中、最後に静かさを味ふのに善^よいのは開幕中の劇場の廊^{らう}下^か、……

(昭和二年二月)

青空文庫情報

底本：「芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1971（昭和46）年10月5日初版第5刷発行

入力校正・j.uitiyama

1999年2月15日公開

2003年10月7日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>)

で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランティアの皆さんです。

都会で

——或は千九百十六年の東京——

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

著者 芥川龍之介

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>